



ハカルワカル広場だより

八王子市民放射能測定室 第43号 2023.11.20 発行

発行元 八王子市民放射能測定室 ハカルワカル広場
〒192-0053 八王子市八幡町 5-11 八中ビル2F

HP <https://hachisoku.org> ① hachisoku@gmail.com ② 042-686-0820

ゆうちょ銀行振替口座:00180-8-290904 八王子市民放射能測定室
他行からは ゆうちょ銀行:018-0224460 八王子市民放射能測定室



7月お茶会 福島原発訴訟の成果と課題

「生業を返せ、地域を返せ！」福島原発訴訟弁護団

八王子合同法律事務所 弁護士 塚本 和也

1. 自己紹介

私は島根県隠岐島の出身で、弁護士が1人もいなかったため、地方で働く弁護士になろうと弁護士を目指しました。首都大(都立大)に進学し、八王子に住んでいました。大学4年の卒業直前に東日本大震災を経験しましたが、受験勉強のために何もできませんでした。司法試験後に青森から銚子まで自転車で南下して現地を見たときに、原発被害の重大性を実感しました。そして、司法試験合格後の司法修習は福島で1年間過ごしました。そこで生業訴訟と出会い、弁護団に加入しました。昨年8月、事務所を移籍して八王子に戻ってきました。金八デモやゼロアクションに励まされており、一緒に頑張りたいと思っています。

2. 訴訟の概要

全国各地に避難された方がいるので、全国30か所以上の裁判所で、1万人以上が原告となって訴訟が行われています。

生業訴訟は、福島地裁本庁に原告約4000名が提訴した最大規模の集団訴訟です。

この訴訟の目的は、①国に「過失責任」を認めさせること(←原賠法は「無過失責任」を定めているため)、②原状回復、③全体救済(中間指針による不十分な賠償を突破する)、④脱原発です。すなわち、私たちは、本件事故を公害だととらえ、裁判を通じて、「住民の生命や健康よりも経済活動を優先する社会はもうやめにしませんか」ということを訴えてきました。

公害裁判で住民側が大切に「被害に始まり、被害に終わる」との言葉のとおり、全国で初めて、裁判官らによる現地検証を実現しました。

3. 被害

上記の検証準備の際に撮影した動画や写真を紹介させていただきました。

「津波だけなら、原発事故がなければ」という言葉(浜通り地域の復興の遅れ)、「ここは我が家じゃない」という言葉(動物によって荒らされた住居の匂い)、人がいなくなって音がなくなった街など、そして中通り地域の保育園や農家の苦労(農地の除染の不十分さ)などについて、裁判官に私たちが伝えたことを感じていただきました。

裁判では、まだ不十分ではありますが、国が定めた中間指針を超える被害が認められました。それを受けて、昨年12月、中間指針が9年ぶりに改定され、目的であった全体救済を進めることができました。対象者は約100万人、金額は約5000億円とされています。

4. 責任

本訴訟において原発事故の法的責任を認めさせるには、国と東電に①予見可能性(=事故を予測できたのか)、②結果回避可能性(=事故を避けることが出来たのか)が認められることが必要です。

予見可能性では、阪神・淡路大震災により4000人以上が災害で亡くなったことを契機として国が設置した機関が、地震の規模や発生確率を予測した「長期評価」の信用性が大きな争点でした。一方、国は、土木学会が作成した、資料の得られる過去最大の地震・津波を基とした「津波評価技術」で十分と主張していました。

結果回避可能性では、防潮堤の設置のみが対策だったのか、水密化や運転停止もできたのではないかが争点でした。

そして、生業訴訟では福島地裁に続き、仙台高裁判決が「一審被告東電による不誠実ともいえる報告を唯々諾々と受け入れることとなったものであり、規制当局に期待される役割を果たさなかったものといわざるを得ない。」と厳しく批判し、国の責任を認めました。全国では、地裁で10勝10敗、高裁で3勝1敗と判断が分かれていました。現地を見た裁判官は国の責任を認める傾向にあったと思います。

このような状況で最高裁は、昨年6月18日、国の責任を否定する判決を出してしまいました。最大の争点であった予見可能性について判断せず、「想定外の津波だったので、仮に対策をとっていたとしても事故を防ぐことはできなかった」という、逃げの判決でした。

ただし、全員一致ではなく、3:1の判断で、三浦裁判官は異例の長さの反対意見をつけ、その中でほぼ住民らの主張どおり、国の責任を認めています。

5. 何ができるか

三浦反対意見を多数意見にしようと、各地の裁判や生業訴訟2陣は戦い続けています。

最高裁判決後は、地裁3敗、高裁1敗という状況ですが、今年3月のいわき市民訴訟における仙台高裁は「違法だが責任はない」という、最高裁判決のおかしさをより明らかにしたような判決でした。刑事事件の高裁判決も無罪でしたが、株主代表訴訟で東京地裁は役員らの責任を認め、13兆円の賠償を命じています。

最高裁判事の天下りなどの疑惑も浮上しています。

(学習会後ですが)上記のいわき市民訴訟は、最高裁の第3小法廷に係属されました。昨年の第2小法廷とは異なる構成で、多くの反対意見を書いている宇賀裁判官が所属しているので、期待ができます。

私は、「法律論では勝っていたが、政治的に負けてしまった」と感じています。脱原発へ、市民運動との連携が不可欠です。ぜひ署名や集会、傍聴などへのご協力をお願いいたします。八王子のみなさんとともに、現地に行きたいとも思っています。



【塚本和也 弁護士 プロフィール】

1988年島根県隠岐の島に生まれる / 2011年首都大学東京卒業 / 2013年立教大学法科大学院修了。司法試験合格、司法修習生(福島配属) / 2014年弁護士登録、/ 2022年8月八王子合同法律事務所入所 現在に至る / 司法試験勉強中に福島原発事故が起き、試験後に被災地を訪問し被災救済に取り組もうと決意する / 大学時代自転車で47都道府県を旅する。

9 月お茶会報告 アメリカの核被害学習会～『黙殺された被曝者の声』～

代表 西田照子

9月のお茶会は『黙殺された被曝者の声』トリシャ・T・プリティキン著、宮本ゆき訳を読み、あまり知られていないアメリカ本土の核被害について学習した。

この本は長崎原爆で使われたプルトニウムを製造していたハンフォードという町の近郊の人々が核被害のもたらす様々な疾病に苦しみ、自ら原告となり裁判に訴えた証言の記録である。著者自身も原告である。しかもその工場から放射性物質が環境中に排出されていたことは 42 年間も隠されていたのであった。

学習会は3部構成で行った。

- A)・・・ハンフォードについての予備知識（担当:二宮）
- B)・・・宮本ゆきさんと白石草さんの対談の動画視聴（OurPlanet-TV 制作）
- C)・・・『黙殺された被曝者の声』より内容紹介（担当:西田）

A) ハンフォードについての予備知識・・・二宮



1. ハンフォードはアメリカのワシントン州、コロンビア川の中流域に位置する。ヤカマ族などのネイティブアメリカンが住んでいたが、1943年のマンハッタン計画によりプルトニウムを製造する地として選ばれ、1500 km²の地区が立ち入り禁止区域とされ、そこに住む人々はすべて強制立ち退きさせられた。

ヤカマ族のラッセル・ジム氏という。「今後 500 年以内に元の状態に戻ることは決してないことはわかっていますが、少なくとも浄化計画を作っていく努力が必要です」(二宮さんはこの先住民族の 500 年先を考えるスケールの大きさに驚いたそうです)

2. ハンフォードがプルトニウム製造地に選ばれた理由
 - ①コロンビア川を水源とできる ②広い土地がある ③人があまり住んでいない
 - ④水力発電所があり大量の電力供給が可能 ⑤気候、交通手段がよい

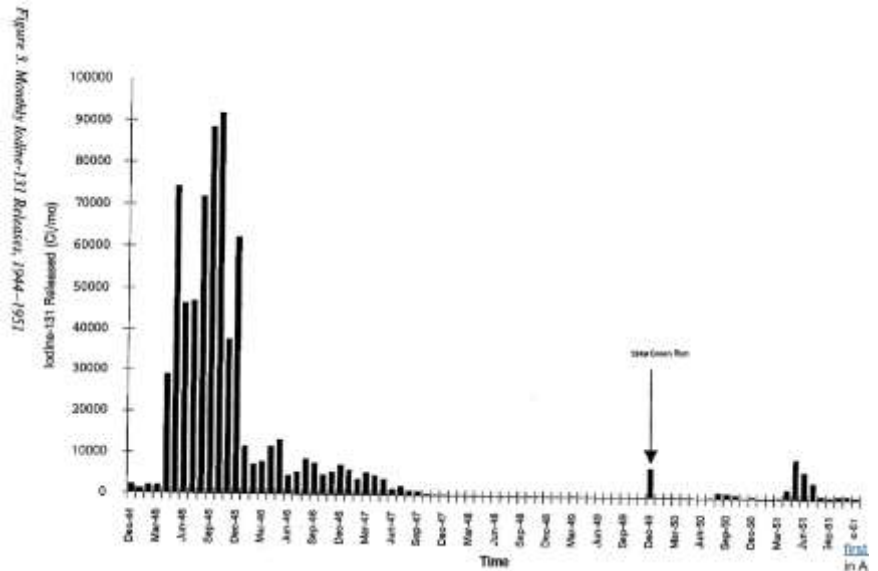
3. グリーン・ラン実験について

1949年8月、ソ連が核実験に成功すると、アメリカは恐怖を抱き、ソ連の核開発を監視しようとする。そのために、ソ連と同じように冷却期間の短い(グリーンな)高濃度の放射性物質を放出しその分散を測ることで内情を推察しようと考え、同年12月、ヨウ素 131 を大気中に大量に(8000 キュリー=300 テラベクレル)放出した。放出実験はこの日だけでなく、前後に繰り返され、1944年～1972年の間に、総量 739,000 キュリー=27 ペタベクレルのヨウ素 131 が放出されたとされる。これは福島事故で出したとされる総量の2割に匹敵する。

重要な点は、事故の場合と異なりこのことが誰にも何も知らされなかったことである。一般の人がこの事実を知るのは 1986 年、エネルギー省が情報公開したときのことである。



グリーン・ランで放出された
放射能の拡散図



月毎のヨウ素 131 放出量(1944-1951)

4. ハンフォードのプルトニウム工場についての公開文書

1943年からハンフォードで製造されていたプルトニウムの製造過程でヨウ素 131 などが産出され、大気中に排出されていたがすべて秘密だった。このことが公開されたのは地元紙の記者、カレン・D・スティールが「死の1マイル(1マイルの間の家にはどの家にもがん患者がいる)」を取材し報じたことにより、新聞社がエネルギー省に対し情報公開を求め、ついに 1986 年に 19,000 ページの資料が公開された。

この文書の公開により、真の原因を知った被ばく者たちは裁判に訴えようとするが、初期被ばくのデータがないため、線量再構築により、自らの被ばく量を推定するほかなかった。しかし、昔の記憶に頼り、食事に何を摂取したかなどから被ばく量を推定する方法は極めて不正確であった。これをもとに、エネルギー省に委託された CDC(疾病予防センター)が、「風下住民の被ばく量と甲状腺がんには何の関連性もない」という結論を出したことには、被ばく者から「人々の経験知とあまりに矛盾している」として批判が続出した。

B) 宮本ゆきさん(記者)と白石草さん対談(Our Planet -TV)を視聴

『黙殺された被曝者の声』の紹介番組であるが、この本の概要を知ることができた。特に、宮本さんは、白石さんの「なぜこの本をこのタイミングで翻訳しようと思ったのですか？」との質問に「福島の復興がイノベーションコーストなど、ハンフォードをモデルに語られている。ハンフォードではトライデックという商工会議所のような機関が、核施設のあるオークリッジ(テネシー州)、ロス・アラモス(ニューメキシコ州)とハンフォードを結んで「マンハッタン計画国立歴史公園」として観光地化している。福島はそのトライデックと提携している。このような核産業に頼った復興を福島の方たちは望んでいるのか？そのことを伝えたくて翻訳した」と答えた。詳しくは次をご視聴ください。

<https://www.ourplanet-tv.org/47534/>

C) 『黙殺された被曝者の声』の内容紹介・・・西田

1. 24 人の原告が自身の核被害を証言。それぞれ成長の履歴と病状(ほとんどガン)について述べている。そのうちの一組の親子をしてみる。

【原告 13 ブレンダ・ウィーバー(原告 14 ジェイミー・ウィーバーの母)】

ハンフォード近郊で育ち、地元農家のミルクを飲み野菜を食べ、コロンビア川で水遊びをして成長した。11 歳の時、甲状腺機能障害を発症、合成甲状腺ホルモン剤を服用。14 歳の時、卵巣が破裂したがもう一方の卵巣は無事だった。

1960 年か 1961 年に大量の羊が目がないなどの奇形で生まれ、「小さな悪魔の夜」と呼ばれた。(大量の放射性物質の排出があったのだろう)その後、1965 年に第一子ジェイミーが生まれるが眼球欠損だった。目のない羊が生まれた後に、人間にも目のない子が生まれた。

ブレンダ自身は、甲状腺結節、乳がん、リンパ腫、腎臓、肝臓、胆のうなどの痛みと、線維筋痛症、骨関節炎、皮膚がんにも悩まされている。夫はパーキンソン病。子どもの時、エルトピアの「死の 1 マイル」に居住していた。ブレンダは言う。「退役軍人に売られた土地は私たちをモルモットにするためだった。政府は私たちを被ばくさせて、監視した。人体実験だった。ハンフォードから白い防護服を着て地表や野菜を調べ動物の死骸などを持ち去った。彼らは何が起きているかを知っていたのだ。」

【原告 14 ジェイミー・ウィーバー(原告 13 ブレンダ・ウィーバーの娘)】

無眼球症(眼球がなく、視神経などもない)で生まれたが、両親がさまざまな教育の機会を準備したおかげで、現在大学で教えている。ジェイミーは言う。「私たちにとって一番大事なことは私たちに何が起きたかを社会が学ぶことである。歴史は私たちがそこから学び、同じ過ちを繰り返さないなら、学ぶ価値がある。政府はハンフォードで何が起こったかを十分調査していない。政府は何が見つかるかを恐れて調査しないのであろう。」

2. ハンフォード裁判の経緯

- 1) 1986 年にハンフォード稼働初期のモニタリング記録が大量に公開され、1991 年、数千人のハンフォード風下住民は「人身傷害賠償要求」の訴訟を起こした。しかし、被告の国や下請け企業は幾重にも法的に守られており、勝ち目がないとして、大手の弁護士事務所は弁護を降りてしまった。
- 2) 提訴の3年前、1988 年、ネバダ核実験の被曝者たちが裁判を争う中、国を被告にすることを禁ずる法律が成立した。
- 3) 初期の放射能測定が隠され、不十分であったため線量再構築に依拠するしかなく、また、原告は甲状腺がん、または甲状腺障害に限られるという原告に極めて不利な裁判となった。
- 4) 長引く裁判(24 年)で費用もかさみ疲弊して自殺する人も出た。裁判は原告がわずかの示談金に応じるという形で 2015 年に終了した。

3. 重要なこと

- 1) ハンフォードのプルトニウム製造工場から、放射性物質排出の事実が 42 年間も隠されていたこと。がん患者が続出するにも関わらず、被害者はその原因がわからなかった。
- 2) 被曝者の病因はすべて内部被ばくであること。
- 3) サンシャイン計画・・・1944 年から 1970 年代まで続いたアメリカ原子力委員会による、核実験で世界中に降った放射性降下物により人体が受けた被ばく量を測る計画。(この名前は放射性降下物は日光のようにあらゆる地表に届くということから名付けた)特にストロンチウム 90 が人骨、歯、動植物、食物などの中に蓄積混入している量を測定するものだった。選ばれた方法は死体をだびに付しその灰に含まれている放射性物質を分析する方法。そのため死体が必要であった。15 年間にアメリカ内外の病院で死亡した 6000 体の死体がシカゴ大学やコロンビア大学の研究所に送られた。

10 月お茶会 テニアン島の今、歴史の悲劇から学ぶこと

維持会員 奥村隆夫

テニアン島は紀元前数千年前から「海と星と太陽」に恵まれ、チャモロ人が伝承文化のもとで暮らしていました。しかし 1521 年のマゼラン航海以降、西欧文化の影響を受け、スペイン・ドイツ・日本・米国と統治国が変わり、常に「大国」の論理に翻弄されてきました。

そして再び日本の、福島第一原発事故から出た、「処理水」と称した汚染水の太平洋への放出を怖れています。テニアンの人々は日本政府の計画段階からの一方的なやり方に抗議の声を上げています。太平洋自治体連合副委員長のワニータ・メンディオラさんは「安全な水」だというなら、日本の中で処理すべきです。海は私たちの生活と生き方、食料の源、経済的基盤、そして、互いの道として繋がっています。現に東日本大震災の時、日本から大量の漂流物がテニアンの海岸に流れ着きました、と語っています。



ワニータ・メンディオラさん(中央の白いTシャツ)
テニアンで漁業をされている皆さん2023年3月



日本からの漂流物が流れ着くテニアンの海岸

反核市長と呼ばれたフィリップ・メンディオラさん

ワニータさんの父フィリップさんは、米国のテニアン核基地化に抵抗し続けました。また 1980 年、日本が太平洋の海に核廃棄物を投棄しようとした時、日本を訪れ 20 日間に渡り、反対を訴え全国を回りました。1985 年 1 月、中曽根首相(当時)は海洋投棄を凍結すると発表し、その知らせを聞いた後、5 月にフィリップ市長は 74 歳で亡くなりました。

1976 年からテニアンを訪れ「鎮魂不戦の旅」を 30 年間続けた、三多摩 9 条連の共同代表・故石上正夫さんとの親交を深めていたのもフィリップさんでした。多くの日本人が身を投げたカリリナス岬で「この雨は仏様の涙ですよ！」とのフィリップさんのひと言に突き動かされ、1978 年「鎮魂不戦之碑」をここに建立しました。



広島平和公園の前で抗議の座り込みをする
フィリップ・メンディオラ市長 1980 年



フィリップ・メンディオラ市長
カリリナス岬「鎮魂不戦之碑」の除幕式 1978年3月

玉砕・自決、東京大空襲、原爆の島テニアン

第一次大戦後、漁夫の利を得るように日本はドイツからサイパン・テニアンなど南洋群島を奪い統治領にしました。テニアン島にも約7500人の日本人移民を送り込みました。当初は南洋興発の砂糖生産に励みましたが、太平洋戦争が近づくと日本軍の飛行場建設に駆り出され、1941年12月8日の真珠湾攻撃の42日前に飛行場を完成させました。1944年になると米軍は南洋群島の島々を次々に占領し、追いつめられた日本軍は「絶対国防圏死守」として「我が身ヲ以テ太平洋ノ防波堤タラン」と守備隊の将兵8111名に玉砕・自決を命じました。さらに「生きて虜囚の辱めを受けず、死して罪過の汚名を残すことなかれ」という戦陣訓を教え込まれていたため、日本人移民は自分の子供にも手をかけ身を投げました。

米軍の攻撃から逃げ、集団自決、断崖から身を投げるなかで、米軍の捕虜となり収容所に送り込まれる日本人も多くいました。



今も残っている激しい砲弾の跡

逃げまどい捕虜になった収容所は、地獄から天国にでも来たように食べ物・生活環境が良く、日本人には目を見張るような光景でした。しかしそれは米国による「日本は専制軍国主義」「アメリカは自由で民主的な国」を映し出すためのプロパガンダに過ぎず、占領したテニアンの飛行場からは、連日B29で日本本土への空爆をくり返し、広島・長崎へ原爆を投下しました。

収容された日本人は1946年1月から5月にかけて全員が日本に帰還しました。生きられた喜びと、同胞や家族を失い、傷ついた記憶を背負い、新たな苦悩にさいなまれる帰国になりました。

テニアン島の悲劇から



いざとなったら、白旗をかかげて
ミライへ命をつなぎましょう

テニアン島の悲劇は、国の指導者の「人の命よりも守るものがある」という考えが、多くの人を死に追いやったことです。この歴史の悲劇から「人の命の尊さ」を語り継ぐことが大切だと考えます。そして今生きる私たちにとって大切なのは、究極的な危機になっても「命を守る」絶対的な価値観を持って生き抜くこと、たとえ一人になっても命を守り未来につなぐことです。また追い詰められた時、人間が集団化すると、他者を巻き込み人間としての判断ができなくなってしまうと、体験者が語っています。

最後に、たとえ『戦争』になっても「争わず、いざとなったら、白旗をかかげ、命をミライに繋ごう！」と訴えたいと思います。白旗をかかげることは危険であり、微力かも知れません。しかし、決して無力ではないと思うからです。

【奥村隆夫さん プロフィール】

1948年9月、北海道生まれ。1967年高校を卒業すると同時に国鉄釧路鉄道管理局池田機関区整備掛として入社。蒸気機関車の助手になりSLの缶焚きとして乗務、厳冬期は-30℃にもなる雪原の線路を、黒煙を吐いて轟進し奮闘。その後、近代化の波でSLが廃止になる。機関士の発令後、1977年東京西鉄道管理局に転勤し中央線の電車運転士、東北・上越新幹線の運転士になる。1987年JR東日本発足後、中央線の車掌になり、1997年から2008年まで組合の専従役員を務め退職。以降、市民活動に傾倒。ハカルワカル広場会員、三多摩9条連、三鷹事件の再審を支援する会の活動等を担っている。

二宮志郎の連載コラム

悲しみの LCA(1)

地球温暖化問題は年毎により深刻化している様相ですが、その対策が「原発推進である」という考えが単に原発推進機関からだけでなく、環境保護論者の中からも上がってきています。最近あのオリバー・ストーン監督まで、「Nuclear Now」という映画を作りその考え方を推進し始めました。

「Nuclear Now」の中には有名な映画「スタンド・バイ・ミー」の1シーン、「蒸気機関車がモクモクと煙を上げながら迫ってくる鉄橋の上で少年たちは逃げ場がなく、最後鉄橋から飛び降りて難を逃れる」というシーンを見せて、人類が直面している状況はこれだと主張します。さすがにうまく引用するものだと感心してしまうのですが、石炭を燃やすところが最悪であり、それから逃れるためには何でもしなければいけない、原子力も当然使う。そういう論理があたかも客観性を持つかのようにすると視聴者の中に入ります。実際には客観性はどこにもありません。

世界のエネルギー政策を考えようとするなら、もう少し、客観性と合理性に貫かれた立場から、より根本的に原子力発電を評価する手法のところから、考え直してみる必要があるように思います。

LCA とは何だったか

3年前に「原発は温暖化防止に役立たない」というタイトルでお茶会の講師をさせてもらった時、LCA (ライフ・サイクル・アセスメント) の話をしました。簡単に復習すると、



原発の様なものを総合的に評価するには、縦軸に相当する、施設の「建設—解体」サイクル、横軸に相当する燃料の「採掘—廃棄処理」サイクルの双方のサイクルを全過程に渡って運転期間だけでなく、全ての処理が終わるまでの全期間を対象にします。その評価が LCA ということになります。その LCA もコスト、エネルギー収支、CO2 排出、健康への影響、様々な対象があります。

LCA は有効なのか

この LCA というものが出してくる結果はどこまで有効なのでしょう。大きな疑問があることは確かです。

そもそもがあまりに複雑です。鉄製ボルト一本を評価するにしても、鉄鉱石を掘り出してから、精錬、製鉄、加工、といったことを考えてみると、そう簡単に結果が出るものではないことがわかります。それを原発の様な巨大施設に対して施すのは、想像を絶します。様々なところで、仮定、簡略化が入らざるを得ないということは容易に想像が付きま

す。客観的な手法を確立するための努力は様々になされてきていて、ISO 14040 という国際的な基準も作られてはいます。そういう基準に基づいて行われた LCA が出す数値ですら、非常に大きな幅があり、国連や国家レベルで方向を決めるのに強い指針を与えるのには不十分です。

私が強調したいのは、まずこの「不十分である」ということを認識することです。

結果の数値に幅があれば、自分の意見を支持してくれる結果だけを見たくになります。しかし、そういうことをやってしまったら、それぞれが自分に都合のいい結果を持ってきてしまって、「LCA は結局なんの役にも立たない」ということで終わってしまいます。

幅のある結果を全てテーブルの上に置いた上で人々が議論をして合意を作ることができれば、「LCA は十分役に立った」と言えるでしょう。

LCA の対象にかけているもの

人々の健康への影響はすでに LCA の対象として評価が出ているかもしれませんが、IAEA の公式見解をもとに出してきている数値はあまりに現実を反映していないように思えますが、それも数値の一つとしてテーブルの上に上げることに私は異論はありません。他の評価値も同様に見てほしいだけです。

それ以上に私が疑問を抱いているのは、「まるっきり評価の対象になっていないことがありはしないか」ということです。

その対象が「悲しみ」です。

原発につきまとう「悲しみ」はあまりに巨大ではないでしょうか。その評価値もテーブルの上の一つの資料として必要だと私は思っています。

Atomtex AT1320A 測定結果(2023年7月～2023年10月現在)

ゼオライトの Cs134 初期値引き算前(Cs134 初期値は 30Bq/kg 程度) 不検出は記載していません。

検体	採取	県名	採取地	検体重量 (g)	測定容器 (cc)	Cs137 Bq/kg	95%範囲 ±Bq/kg	Cs134 Bq/kg	95%範囲 ±Bq/kg	備考
土(側溝内の土)	2023.7.25	東京都	八王子市絹ヶ丘	760	1000	700.0	140.0	34.2	8.2	定点測定
土(側溝内の土)	2023.8.1	東京都	八王子市寺田町	1086	1000	351.0	70.0	21.9	5.3	放射能測定モニター
土	2023.10.16	東京都	八王子市片倉町	1148	1000	253.0	51.0	20.8		
庭の土	2023.10.21	東京都	八王子市八幡町	1176	1000	147.0	29.0	14.7	3.9	放射能測定モニター
お茶(茎茶)	2011	静岡県	駿河区	371	1000	137.0	37.0	11.0	7.6	定期測定
調整池周辺の土	2023.9.12	東京都	八王子市寺田町	1146	1000	126.0	25.0	14.3	14.3	放射能測定モニター
里山の土	2023.7.3	東京都	八王子市中山	754	1000	125.0	25.0	5.0	以下	定点測定
里山の土	2023.7.10	東京都	八王子市中山	782	1000	109.0	22.0	11.0	3.9	定点測定
プランター用の土	2023.9.5	東京都	八王子市絹ヶ丘	745	1000	107.0	22.0	10.7	4.3	
庭の土	2023.8	東京都	八王子市絹ヶ丘	1000	1000	100.0	20.0	3.8	以下	放射能測定モニター
里山の土	2023.7.17	東京都	八王子市中山	909	1000	87.1	17.6	11.5	3.8	定点測定
側溝の土	2023.6.9	神奈川県	横浜市青葉区	505	1000	68.4	15.7	15.1	6.2	放射能測定モニター
掃除機内の埃やゴミ	2023.8.1	東京都	八王子市絹ヶ丘	137	500	66.7	18.7	16.5	以下	1時間測定 自主測定
土(園芸用)	2023.10.20	東京都	八王子市緑町	655	1000	60.3	12.9	20.9	5.3	放射能測定モニター
公園の土	2023.7.12	東京都	八王子市寺田町	869	1000	53.6	11.5	4.3	以下	放射能測定モニター
広場側溝の土	2023.9.19	東京都	八王子市寺田町	954	1000	49.3	10.5	3.9	以下	放射能測定モニター
ゼオライト	2023.10.5	東京都	八王子市長房町	965	1000	42.6	9.9	35.6	8.1	ゼオライト
土	2023.10.19	東京都	八王子市小門町	1159	1000	41.6	8.7	14.2	3.5	
公園側溝土	2023.10.10	東京都	八王子寺田町	1087	1000	41.2	9.2	12.9	3.8	放射能測定モニター
土(葉っぱ、根まじり)	2023.9.17	山梨県	南都留郡鳴沢村	668	1000	34.1	7.7	4.3	以下	放射能測定モニター
ゼオライト	2023.7.27	東京都	八王子市長房町	973	1000	32.7	8.1	35.6	8.1	ゼオライト
里山の土	2023.9.18	東京都	八王子市中山	951	1000	32.0	7.5	10.7	3.7	放射能測定モニター
土	2023.10.13	東京都	八王子市打越町	1132	1000	32.0	7.3	3.4	以下	
竹の落葉	2023.7.2	東京都	八王子市中山	171	1000	30.1	16.2	23.9	以下	
土(元田んぼ中央)	2023.10.25	東京都	町田市相原町	1105	1000	27.6	6.6	15.2	4.1	放射能測定モニター
土(元田んぼ水口)	2023.10.25	東京都	町田市相原町	1514	1000	25.7	6.0	13.1	3.4	放射能測定モニター
掃除機内埃ごみ	2023.9.25	東京都	八王子市片倉町	315	1000	19.7	7.5	9.6	以下	放射能測定モニター
砂場の砂	2023.10.19	東京都	八王子市小門町	1260	1000	13.9	4.3	17.1	4.4	

測定室からのお願い 測定検体の容量は、0.5 リットルまたは 1 リットルです。多めにお持ちください！

EMF211 測定結果(2023年7月～2023年10月現在)

不検出は記載していません。

検体	採取	県名	採取地	検体重量 (g)	測定容器 (cc)	Cs137 Bq/kg	95%範囲 ±Bq/kg	Cs134 Bq/kg	95%範囲 ±Bq/kg	備考
乾燥青じそ	2023.7	東京都	八王子市片倉町	114.9	1000	10.9	4.3	8.2	5.2	2時間測定



あなたの家のまわりは大丈夫？

測って確かめませんか？

次の10年の土壌測定プロジェクト



はじめまして

測定ボランティア 北岡俊治

元同僚だった西田さんに、20 数年ぶりにお会いしたのがきっかけで、測定ボランティアに加えていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

少し昔のこと、1974 年だったと思います。瀬戸内海に面したコンビナートで大規模な石油流出事故がありました。海流と風の影響を受け瀬戸内海の 1/3 程の広い海域に石油が広がり大きな被害をもたらしました。その事故の象徴的と思えた光景は、漁師が漁船で油まみれになりながら、「ひしゃく」で真っ黒な石油をすくい取って回収するという姿でした。それなりに科学技術が進歩しつつあった経済成長期の当時、事故対応が「ひしゃく」なのか、と愕然としたことを覚えています。

私が原発に反対の意思を持ち始めたのはその頃からでした。事故が起きたときに外に出てしまうものは、「ひしゃく」では回収できないやっかいな放射性物質。一部を回収したとしても残念ながら処理をする技術も不十分。安全に対する思想も足りていない。予想通り、ついには回収・貯留することすら諦め、「薄めれば安全」と言いくるめて海に流す有様。「水俣病」の教訓をお忘れになったご様子です。これは科学の敗北、人間の知恵の敗北でしかない。事故以降の政府と東電のありようをみていると、原発は「誤魔化しの産業」だなあと、つくづく思ってしまうのです。

「ALPS 処理汚染水海洋放出差し止め訴訟へ」 —海洋放出の問題点—

西田照子

8月24日、とうとう日本政府と東電はALPS処理汚染水の海洋放出を始めました。主に次の点が問題です。

1. 放射性物質は「閉じ込める」が基本原則。事故で環境中に拡散させたのだから、少なくとも意図的に環境中に出してはいけない。さらに、汚染者負担の原則により、汚染物質の発生者が最後まで環境から隔離して管理すべき。
2. 福島原発は事故を起こし、その水はデブリの上を通過しているため、トリチウム以外の核種を含んでいる。これは東電も認めている事実である。ALPS 処理装置は62種の核種しか処理できないため200 種以上もある核種は除去しきれない。これは通常原発から排出される(トリチウムを含む)水とは全く異なる点である。
3. 東電と政府は関係者の理解なくしてはいかなる処分もしないと 2015 年に福島県の漁業関係者と文書で約束を交わしていたが、その約束を破った。福島事故により、漁業者は大きな痛手を受けてきたが、やっと立て直してきたところへ汚染水の放出という追い打ちをかけられた。
4. 海は日本だけの海ではなく、世界の海、公海である。なのに、周辺諸国に事前相談もなく放出した。たとえば言えば、公園に「これは安全ですから」と個人のゴミを捨てるようなものである。海を生活の場としている太平洋諸国の人たちも海を核物質で汚染されると怒っている。
5. 海に流せば生体濃縮が起こる。プランクトンから大型の魚へ、最後は人間が最も汚染されたものを食することになる。
6. 海に放出するのではなく、大型のタンクなどに地上保管すべき。トリチウムは半減期が約 12 年だから保管すれば減衰していく。あるいはモルタル固化などの他の代替案を真剣に考えるべき。

主に以上の理由で海洋放出は許されません。結果、中国による日本の水産物の禁輸を招きました。海洋放出を何とか止めさせたいと、福島県の漁業者が中心となり、「ALPS 処理汚染水海洋放出差し止め訴訟」を 9 月 8 日、福島地裁に提訴しました。



「おれたちの伝承館」訪問記

代表 西田照子

9月23日、かねてから訪れたいと思っていた福島県南相馬市小高にある「おれたちの伝承館」を金子淑子さんと訪ねた。「おれたちの」をわざわざつけているのは双葉町にある福島県営の「東日本大震災・原子力災害伝承館」を意識してのことである。福島原発事故を芸術を通して伝える、それも公営でなく民間ボランティアで運営し、アーティストが作品を通して伝えるという意気込みを示している。設備会社の倉庫を借り、除染をし、壁塗りからすべて手作りの伝承館！館長はハカルワカル広場でもおなじみの写真家の中筋純さん。なぜか何人もの重機を扱える専門家も助っ人にて、天井画を天井に持ち上げたり、プロも顔負けの設営作業だったのです。

「おれたちの伝承館」の看板が小さく掲げてある入り口を入るとまず、飼い主が避難し、そのため飢えて柱をかじって死んだ牛の死骸が和紙で作られた作品(小林桐美さん作)が目に入ってくる。なぜか彩色されない真っ白の和紙の牛。当時この牛を報じた記事が「まるで紙のようだった」と書いたことに着想を得たと作者は書く。その横には村上海岸で集めたそれは清らかな貝殻が。小さな貝には「汚染水を流さないで！」と書いたメモがつけてある。貝が「命を助けて」と言っているようだった。目を天井に移すとそこには馬が駆け、魚が泳ぎ、鳥が飛び、人がクラリネットを吹く天井画が！「命煌めき」(山内若菜さん作)だ。色彩の豊かさに目を奪われる。そしてその下には畳が置いてある。「なんのため？」としばし考え、「寝転がって天井画をみるためだ！」と合点して、寝転がると実によく見えた。その天井画へ手を伸ばすかのように木彫りの彫刻(「鳳凰」(安藤栄作さん作)が1、2階を貫いて屹立する。

2階には三原由紀子さんの短歌、豊田直己さんの写真、そのほかたくさん若きアーティストたちの作品が「原発事故とは何だったのか?」、「真の復興とは?」と問いかけるように展示されている。

鑑賞した3時間があっという間でした。もっと作品を置きたいので、空き地の方へ館を“増殖”する計画だそうです。皆さんもぜひ訪れてみてください。遠いけれど、行って本当に良かったと思えるはずです。

ぜひ、次をご覧ください → <https://congrant.com/project/moyai/6407>



開館：11月26日までは金曜～日曜、祝日開館 それ以降の開館情報はHPのカレンダーをご参照ください！ <https://suzyj1966.wixsite.com/moyai>

入館料無料、福島県南相馬市小高区南町 2-23、JR 常磐線小高駅下車徒歩5分
(お問い合わせ): 2021moyai@gmail.com

公的施設でなく民間の施設ですのでご支援をお願いします！

*ゆうちょ振替 00180-3-392592 他行より ゆうちょ銀行 019 店 当座 0392592
口座名義 モヤイテンジッコウイインカイ



測定室からのご報告とお知らせ

- * 7月1日(土)お茶会「福島原発訴訟の成果と課題」講師:塚本和也弁護士
原発の被災地を司法修習生の時訪れ、原発裁判に関わりたと思われた塚本弁護士の講演会でした。講演は被災者にインタビューしたビデオを見ることから始まり、裁判官を何とか被災地に連れて行き現場を見せることが大切と力説されました。詳しくは巻頭記事をご覧ください。
(参加者:オンライン19名、会場10名)
- * 9月2日(土)お茶会「アメリカの核被害について」の学習会
学習会の感想に「アメリカにこんなに核被害にあった人たちがいるのか？」と驚きの声が寄せられました。きっと大半の方が同じ思いを抱かれたのではないのでしょうか？ ハンフォードのプルトニウム製造工場から放射性物質が排出されていたことが長い間秘密にされたため、風下の住民は原因不明のがんなどに苦しみました。今回は講演会ではなく、『黙殺された被曝者の声』(トリシャ・T・プリティキン著、宮本ゆき訳)を読んで学習するお茶会でした。
(参加者:オンライン22名、会場8名)
- * 10月14日(土)お茶会「テニアン島の今、歴史の悲劇から学ぶこと」講師:奥村隆夫さん
「テニアン島の今」を動画を通じて語ってくれたのはワニータ・メンディオラさん。「海は生活の糧を得る場であり、神聖な場。そこを自国で処理できない核廃棄物で汚染するのは絶対に No!」と話され、テニアン島の漁師さんたちも”No Dumping!(ゴミを捨てるな!)。講師の奥村隆夫さんがテニアン島の悲劇の歴史を今に結び付けてお話しされました。最後に「戦わない覚悟」を話されたのが心に強く残りました。
(参加者:オンライン17名、会場11名)
- * 11月11日(土)お茶会「どうして?の運動～新宿御苑への汚染土持ち込みに反対する～」
講師:平井玄さん。このお茶会については次号で報告します。

次の10年の放射能測定プロジェクトの参加者を募集しています。

詳しくは右のQRコードを読み取ってください。測定は非常時に備え平常時の測定を続けることが大切です。ご協力をお願いします！



「311 子ども甲状腺がん裁判」原告支援カンパ ご支援をお願いします！

カンパの振込先:三菱 UFJ 銀行 四谷支店 口座番号:0549130

口座名義:311 甲状腺がん子ども支援ネットワーク 左のQRコードよりチラシをご覧ください。

今後の予定

- * 12月9日(土)お茶会・・・「アメリカの核意識について」の学習会
(できれば『なぜ原爆が悪ではないのか?』(宮本ゆき著、岩波書店)を読んでおいてください)
- * 冬季休室 12月23日(土)～1月8日(月)まで
- * 1月13日(土)お茶会・・・山田真先生講演会
- * 2月3日お茶会(土)・・・未定

会員が減って困っています。
お知り合いをご紹介ください！



2024年3月3日(日) ハカルワカル映画会

「サイレントフォールアウト」

上映日:3月3日(日)午後1時から

場所:北野市民センター8階ホール

チケット:1000円 予約もハカルワカル広場へ電話・メールでお申し込みください。

ハカルワカル広場は維持会員の会費とボランティアで運営されています。

八王子市民放射能測定室

ハカルワカル広場

〒192-0053 東京都八王子市八幡町5-11 八中ビル2F
お電話 問合せ **042-686-0820**

HP: <https://hachisoku.org> メール: hachisoku@gmail.com
【開室】火曜日～土曜日:10時～12時

ボランティア、維持会員募集中！

お問い合わせはハカルワカル広場まで

寄付も大歓迎です！ ゆうちょ銀行 00180-8-290904 (八王子市民放射能測定室)
他行からの振込は 018-0224460 (八王子市民放射能測定室)